

株式会社いとう呉服店の催事展開からみえる百貨店の営業動向 ――大正中期における百貨店化過程の先駆的一齣――

末 田 智 樹*

はじめに

現今、各百貨店における「催事」は店舗へ顧客を集客するため、活発に展開している展示即売会や特卖会を主流とする重要な営業戦略である。^①しかし日本の百貨店の成立過程において、催事に着目した研究は、従来本格的に進められてこなかった。代表的な呉服系百貨店では、三越や松坂屋などの営業展開の一端として催事を考察した研究はあるが、百貨店の成立過程とリンクした形で、催事展開の意義を探るまでには至っていない。

問題意識としてはもう一つある。筆者には、専門商社の企業勤務において百貨店の派遣社員としての実務経験があり、実際に全国の数多くの百貨店において催事を中心とした営業に現場で従事してきた。^③自らが体感してきた催事の源流を説明することによつ

て、三越や松坂屋などの百貨店が一〇〇年以上も継続してきた真義を究明したいと考えている。

現下の百貨店は、売上高の面で年々減少し、衰退傾向の厳しい状況にある小売業態であるとみられている。けれども拙著『日本百貨店業成立史』のなかで、長きにわたり日本の近代的大規模小売業をリードし、現在の多種多様な小売業態を発生させ、それら創業者・経営者の経営哲学や経営戦略における発想の原点となってきたことを述べた。^④しかしながら、一方で百貨店がこのような本義を有していたか否かについて、疑問を抱く現代学を探索する研究者を機軸に存在していることも間違いない。

この二つの主な理由から、百貨店の成立過程における催事展開に着眼する。三越については、拙著で明治後期以降の百貨店成立初期の催事展開の実態に触れ、同社の百貨店化過程におけるその

重要性を鮮明にした。^⑤しかし、明治後期から百貨店化過程のなかで催事展開を進取的に開始したのは三越だけでなく、明治四十三年（一九一〇）年三月一日に名古屋市栄町で開業した松坂屋においても展開された。^⑥

三越の百貨店化から五年後に株式会社化することによって、百貨店化過程を歩み出した松坂屋は、拙著で述べたように三越と比べて研究事例として注目されてこなかった。^⑦拙著では、松坂屋の催事展開について若干明らかにしたが、深く掘り下げて、それを同社の百貨店化過程のなかで位置づけることができなかった。^⑧本稿では、松坂屋（株式会社いとう呉服店、以下、株いとう）の営業報告書に掲載されている催事一覧表を抜き出して検討する。

三越や株いとうの二社の呉服系百貨店において、明治後期から営業報告書が作成されるようになって、そのなかに催事の日程や内容に関して克明に記されている。^⑩それに対して白木屋、松屋、高島屋、大丸など他の代表的な四つの呉服系百貨店については、株式会社への転換が、大正八・九（一九一九・二〇）年であった。そのため、それ以前における各社の具体的な催事展開に関しては、各社の社史からその全貌を浮き彫りにできない。これらの呉服系百貨店の催事展開を捉えることの可能な社史は三越のみである。

ところが、三越の社史において催事内容が一覧表となっており、かつ同社の営業報告書も一覧表の形態を取っていないため一目瞭然というわけではない。^⑪したがって、このような状況のなか催事一覧表が記され、月ごとと店ごとに端的に把握できる営業報

告書は株いとうだけである。

株いとうの催事内容は、営業報告書では創立の明治四十三年三月から読み取れる。そのなかで営業報告書に一覧表として掲載されている時期は、大正四（一九一五）年三月から昭和十（一九三五）年二月までである。今回は、大正四年三月から大正十二年一月までの名古屋営業部（以下、名古屋本店）と、東京営業部（以下、東京支店）の催事展開を三つの期間に分けて、各々の期間の経営動向とともに検証する。^⑫

第一に、百貨店成立初期の催事とは、どのような内容であったのか。第二に、当時登場したばかりの新しい小売業態であった百貨店経営において、催事展開はいかなる役割を果たし、どのような営業動向を示したのか。第三に、日本の百貨店化過程のなかで、いかに位置づけることができるのか。本稿は、それら三点を解き明かすことを目的とし、百貨店化過程の先駆的な一齣を精解する。^⑬

一 大正四年三月から同七年一月までの経営動向と催事展開

まず、株いとうの大正四（一九一五）年から同六年までの経営展開に関連する主要な動向について述べておこう。

第一は、株いとうの社内報として大正四年八月二十五日に『店報』の発行が始まったことである。^⑭『店報』の発行目的が第一号

の冒頭に明記されている。⁽¹⁵⁾ これは、株いとうの経営発展にもなって業務内容が複雑になったために、「命令、通達、告示」をすべての店員に周知させる狙いと、スムーズな「店務服行」という職務遂行に主眼を置いて出されたものである。同号の末に附録として「大正四年八月十五日現在」の名古屋本店と東京支店の部門別職制が掲げられ、部門管理制が一応の成立をみたことが読み取れる。⁽¹⁶⁾

第二は、大正五年四月十六日に伊藤家三〇〇年祭が、清洲の日吉神社において盛大に執り行われたことである。⁽¹⁷⁾ 本来なら明治四十四（一九一）年が、初代伊藤祐道による呉服小間物問屋創業から三〇〇年にあたるが、株いとうの開業の翌年であり、百貨店としての経営を軌道に乗せることが優先された。この三〇〇年祭は、伊藤家の多角的事業の中軸であり、成長し始めた株いとうの以後の益々の発展を祈願する絶好の機会ともなった。⁽¹⁸⁾

第三は、同社の資本金が、大正五年九月二十七日に新株の募集で五〇万円増加し、一〇〇万円となったことである。⁽¹⁹⁾ この増資の

事情に関しては、第十四期営業報告書の最初に載せられている。そこには、大正六年二月十五日の定時株主総会において、取締役社長である伊藤守松（祐民）が創立満七年目にして、さらなる百貨店事業の発展のために資本金を倍加したことを弁じたことが記載されている。⁽²⁰⁾ それにともなって株主数が、二十一名から百十四名へと一気に急増した。⁽²¹⁾

第四は、大正五年十二月一日の上野にある東京支店の新本館の第一期と、翌六年十月一日の第二期の落成による全館の完成である。⁽²²⁾ 東京支店は、新店舗展開によつて大正六年前期に、名古屋本店を売上高と純利益の両方で追い抜き、昭和戦前期の株いとう全体の経営発展の大きな支柱となったのである。⁽²³⁾

株いとうの三年間には、大きな四つの動向が存した。⁽²⁴⁾ これらは、いずれも株いとうの経営を発展へと導く息吹を吹き込む重要な新展開を示し、同社が百貨店化を大きく前進させたことを意味していた。

次に、この時期の催事一覧表を載せて考察していこう。

名古屋営業部	東京営業部
三月五日 第六回開店記念大売出し（三日間） 記念品 金側懷中時計外数十種贈呈 余興 筑前琵琶 狂言 三曲合奏	十一日 紅耳会主催当代俳優似顔絵展覽会（七日間） 十五日 赤鳥社同人小品展覽会（十日間） 友染モスリン新柄陳列会 特製洋傘及新製スカーフ陳列

大正四（一九一五）年前期
第十一期営業報告書

六 月	五 月	四 月	三 月	
一日 夏物大売出し 十三日 爾後毎土日曜ノ雨天ヲ除クノ外夜間営業（七月二十五日迄） 十三日 ハーモニ―会員洋楽演奏会 十五日 中元贈答品大売出し	一日 婦人持洋傘、紹セル仕立羽織、特製婦人草履、季節向鳥打帽子及靴ノ特価均一販売（五月中） 端午祭（五日間） 二、三日 御召、薄衣地、丸帯、片側帯及瓦斯縞ノ特別陳列販売 八日 小室翠雲画伯百幅会（九日間） 十五日 第九回新製陳列会 中形浴衣地新柄会 麻蚊帳、夏帽子均一売出し 二十一日 カメラ倶楽部主催写真展覧会（七日間）	一日 春衣新柄大売出し 洋服部春季特価売出し 余興 狂言 音楽（三日間） 五日 お芝居人形並ニ俳優似顔絵陳列会（六日間） 六日 岐阜市ニ於テ巡行陳列会（三日間） 十日 岐阜県大垣町ニ於テ巡行陳列会（二日間） 十三日 愛知県庁御用命ノ大嘗祭悠紀斎田奉仕者耕作服ヲ附属裁縫所ニ於テ謹デ調整ニ従事ス 十四日 盛花陳列会（四日間） 十五日 夏帽子新荷売出し 五月 幟及武者人形陳列会	十五日 帶側新柄会 袋物履物新製品陳列会	名古屋営業部
一日 夏衣大売出し 流行浴衣地百選会 夏半襟新柄陳列会 一日ヨリ三日迄及爾後毎土日曜ノ雨天ヲ除クノ外夜間営業（七月十二日迄） 余興 蛍狩（六月末日迄）	一日 名古屋絞品評会 新型夏帽子売出し 国光会絵画展覧会（十五日間） 銘仙、友染帯側、洋傘ノ特価販売（十五日間） 十六日 故鶴田機水氏遺作展覧会並ニ追善画会（五日間） 二十一日 織田一麿氏半折画及素描画個人展覧会（五日間）	一日 春季新柄陳列会 寄切見切反物大売出し 縞セル 英ネル 新着品発売 十日 歴史風俗画展覧会（十日間） 五月人形陳列会 片側帯御召丸帯ノ大割引販売（五日間） 十一日 三葉会主催現代六十大家作品画会（十一日間） 十三日 日本菓子技術奨励会主催第四回菓子陳列会（三日間） 二十一日 珊瑚会第一回絵画展覧会（十日間）	二十一日 独立絵画協会展覧会（十日間）	東京営業部

大正四年後期 第十二期営業報告書			
七 月	六 月	八 月	九 月
一 日 薄もの大売出し(五日間) 特別景品付特価品提供及友染モスリン均一販売 二十四日 第五回ダリヤ陳列会(二日間)	十 日 御召、縞紹羽織地、仕立夏コート及女帯地ノ割引販売(六日間) 十三日 日本菓子技術奨励会主催第五回菓子陳列会(三日間) 千葉県千葉町、銚子町、福岡町及小見川町ニ於テ巡行陳列会(十一日間)	一 日 夏物棚さらへ売払 夜間営業(三日間)	五 日 常盤津演奏会(玉沢屋社中主催) 十五日 新形冬帽子大売出し 二十一日 婚礼用広帯地陳列会(七日間) 小間物陳列会(七日間) 二十六日 長唄温習会(盛栄連主催)
二 日 石榴躑躅陳列会(五日間) 六 日 伊勢崎銘仙特価販売 七夕祭(二日間) 十日 中形浴衣地特価品提供(三日間) 十六日 千葉県勝浦町、茂原町及東金町ニ於テ巡行陳列会(八日間)	一 日 中元大売出し 贈答用品及半襟外四種特価品陳列 華客ニ対シ七月十二日迄有効ノ特別割引券ヲ配布セリ 連日夜間開店(十二日間) 埼玉県川越町、熊谷町、及秩父大宮町ニ於テ巡行陳列会(八日間)	一 日 夏物棚さらへ大売出し(五日間) 大輪変咲朝顔品評会(五日間)	十五日 銘仙破格大割引並ニセル特価提供(五日間) 香田勝太画伯はなノ絵展覧会(七日間) 二十五日 黒耀社同人美術展覧会(十一日間)
		名古屋営業部	東京営業部

十二月	十一月	十 月	
一 日 広帯、友僊、御召特価大売出し 銘仙類新製品裏地付売出し（五日間） 余興 四連妓大典奉祝舞踊（四日間） 中央洋画協会第一回展覧会（五日間） 歳暮大売出し 実用格安品大売出し 羽子板破魔矢陳列会 二十四日 夜間営業（四日間）	一 日 新製品陳列会 二十一日 東西名家百幅画会（五日間） 二十四日 本場大島かすり均一販売（二日間）	一 日 冬物大売出し 御大典模様陳列会（七日間） 和服「褌と吹」仕立振競技会（七日間） 友僊モスリン新柄陳列会（七日間） 新流行シヨール売出し 二十日 御大典奉祝大売出し （市内同業） （組合連合）（三日間） 記念品金剛懷中時計外三種贈呈 余興 三曲合奏会 出来合品部開設披露売出し 新柄モスリン特価式拾銭均一売出し（三日間） 御大典記念万歳抹茶碗予約販売ノ抽籤ヲ行フ 三十一日 筑前琵琶演奏会	名古屋営業部
一 日 歳暮大売出し 裏地絹福引景品付特別売出し 特製羽子板陳列会 第一回聖扉社同人作画展覧会（五日間） 紺耳会主催第二回芝居漫画展覧会（五日間） 高貴織、節糸織、シヨール、帽子其他割引品提供（三日間） 十七日 丙辰半折会主催龍の画半折画会（五日間）	一 日 新柄銘仙大売出し 文展作品応用半襟陳列会 中山、中折帽子及シヨール特価提供 奉祝記念大輪菊花品評会 埼玉県本庄町ニ於テ巡行陳列会（二日間） 東池坊生花秋季大会（三日間） 二十一日 第三回赤鳥社同人展覧会（十日間）	一 日 冬物大売出し よせきれ見切反物売出し 婚礼衣裳陳列会 御大典模様応用品陳列 西華会主催現代大家半折画展覧会（五日間） 七五三祝着陳列会 十日 日本菓子技術奨励会主催第六回菓子品評会（三日間） 十一日 高貴織、女帯地、お召、友禪縮緬特別割引売出し（五日間） 十五日 三葉会主催第二回七十大家作品画会（七日間） 二十八日 埼玉県川越町ニ於テ巡行陳列会（二日間） 三十一日 埼玉県熊谷町ニ於テ巡行陳列会（二日間）	東京営業部

大正五(一九一六)年前期 第十三期営業報告書		名古屋営業部		東京営業部	
一 月	二 日 新年大売出し サカエぎれ発売(三日間)	二 月	一 日 棚さらへ大売出し 盆石生花陳列会(二日間) 花器陳列会(同)	五 日 雛人形陳列会 棚さらへ大売出し(五日間) 第七回日本菓子技術奨励会(三日間)	二 日 新年大売出し
六 日 第六回こども会(六日間) 本場銘仙均一並ニ流行ショール二割引販売	十五 日	三 月	五 日 第七回開店記念大売出し(三日間) 記念品 商品券外数十種呈上 余興 三曲合奏 十五日 片側帯陳列会 片側帯及コート特価提供 十八 日 盛花生花陳列会(二日間)	一 日 新柄片側帯陳列会 新製洋傘売出し 紅葉会主催盆景陳列会(五日間) 銘仙新柄大売出し	
四 月	一 日 春衣大売出し 婦人洋傘及ショール景品付売出し 十五日 五月幟及武者人形陳列会 十七 日 東西流行衣装くらへ(月末迄)	五 月	一 日 春季新柄陳列会 半襟新柄陳列会 寄切見切反物売出し 新着セル、ネル売出し 五日 五月人形陳列会 御召、絹堅御召、丸帯、片側帯、大島緋割引販売(五日間) 三葉会主催現代八十五大家作品画会(十日間)	一 日 名古屋絞品評会 新型夏帽子売出し 夏物新柄半襟陳列会 女持洋傘景品付売出し	
五 月	一 日 夏物新製品陳列会 夏帽子売出し 本セル景品付売出し 端午祭(五日間)				

大正五年下半期 第十四期營業報告書		名古屋營業部		東京營業部	
八 月	七 月	六 月	五 月	一 日	一 日
十三日 西瓜会 (名古屋田園俱樂部主催)	一日 薄衣大売出し 二十二日 夏物棚さらへ売払 (三日間) 第六回ダリヤ陳列会 (同) 二十三日 夜間營業休止	五日 夏物大売出し (三日間) 浴衣地陳列会 九 日 カメラ俱樂部写真展覽会 (五日間) 十日 爾後毎土日曜ノ雨天ヲ除クノ外夜間營業 (七月中旬迄) 十五日 中元贈答品大売出し (月末迄)	十三日 国産有松絞特別大売出し (三日間) 十五日 中形浴衣地新柄会 二十日 夏物大見切売出し (二日間) 二十五日 店員余技進物裝飾競技会 (二日間) 二十九日 店員余技店頭裝飾競技会 (二日間)	五日 碌華会彫塑鍍金展覽会 (十日間) 十日 均一デー 本場銘仙、片側帯、 麦稈帽子 染紉、仕立座布団、 (六日間) 十六日 第八回日本菓子技術奨励会 (三日間)	一日 夏物棚さらへ大売 (出) し (五日間) ※ (出) は筆者による加筆
		一日 中元大売出し 贈答品、御仕着地其他特価品陳列 連日夜間開店 (十二日間) 中元ノ臨時提供 (六日間) 七夕祭 (二日間) 群馬県高崎市、前橋市、埼玉県本庄町、熊ヶ谷町及大宮町ニ於テ巡行陳列会 (十九日迄)	一日 夏衣大売出し 中形浴衣地百選会 寄切見切反物大売出し 三日 爾後毎土日曜ノ雨天ヲ除クノ外夜間營業 (七月中旬迄) 十日 景品 蜜籠呈上 (六月末日迄) 夏物特別売出し (六日間) お召、縞紹羽織地、夏銘仙及友仙縮緬割引 十五日 中形浴衣地及香水特価販売 宇都宮市、茨城県古河町、下館町、水戸市、石岡町及土浦町ニ於テ巡行陳列会 (月末迄)		

大正六（一九一七）年上半年
第十五期營業報告書

九 月	二十日	大和模様図案陳列会（二週間）	十三日	銘仙割引売出し（五日間）
十 月	一日 十五日 二十日 二十五日	冬衣大売出し（三日間） 京染モスリン百選会（三日間） 七五三祝着陳列会（月末迄） 蛭子講大売出し（三日間） 売場出品新製品陳列会（一週間）	一日 十日 十三日	冬衣大売出し 大和模様図案並に応用品陳列会 七五三祝着陳列会（月末迄） 新柄半襟陳列会（同） 第九回日本菓子技術奨励会（三日間） 秋の特別売出し（五日間） 大島紬、御召、友仙縮緬、広帯の割引
十一月	四 日 二十一日	秋季こども会（十九日迄毎土日曜） 毛皮製品陳列会（一週間）	一 日 十五日	新柄銘仙大売出し 文展応用品陳列会 重陽会主催大輪菊花品評会（十一日迄） 御礼の為臨時大売出し（五日間）
十二月	一 日 十日	新柄半襟陳列会（月末迄） 正月用御家庭用具陳列会（同） 歳暮贈答品陳列（月末迄） 羽子板破魔矢陳列（同） 実用格安品大売出し（同）	一 日 五日 十一日	初春晴衣裳陳列会 羽子板陳列会 歳暮大売出し 三大実用品の特別提供（二十五日迄）
一 月	二 日	新年大売出し 盛花投入生花陳列会（三日間）	二 日 四 日	新年福引大売出し（一週間） 第一回こども会（八日迄）

大正六（一九一七）年上半期
第十五期営業報告書

名古屋営業部

東京営業部

二 月

一 日
三大実用品特価大売出し（三日間）
本場銘仙、大島染紬及モスリン特価販売

一 日
雛人形陳列会
第十回日本菓子技術奨励会（三日間）
棚さらへ大売出し（五日間）

六 月		五 月		四 月		三 月		
一 日	婦人洋傘景品付提供 (三日間)	一 日	夏物新製品陳列会	一 日	春衣大売出し	一 日	第八回開店記念品大売出し (三日間)	名古屋営業部
五 日	夏物大売出し	十二 日	片側帯及モスリン特価提供 (二日間)	十五 日	脊広服及単トンビ特価提供 生花、盛花、瓶花陳列会	十五 日	記念品 金側時計外十数種呈上 余興 各連妓舞踊	
十六 日	中元贈答品大売出し	十五 日	夏銘仙新柄陳列会	セル及英ネル売出し		片側帯陳列会		
二十三日	毎土日曜夜間営業 (六、七月中)	大和模様浴衣地陳列会				婦人洋傘陳列会		
	夏帽子及婦人洋傘割引提供 (五日間)					帽子及ショール売出し		
一 日	夏衣大売出し	一 日	銘仙特製品陳列会	一 日	春季新柄陳列会	一 日	流行帯地新柄陳列会	東京営業部
八 日	石川県工芸品陳列会 (二十日間)	七 日	名古屋絞り陳列会	五 日	新着ネル、セル売出し	十五 日	実用向本場銘仙帯側均一提供	
十二 日	新潟市、長岡市、高田市、長野市及松本市ニ於テ巡行陳列会 挙行 (二十七日迄)	十五 日	友仙帯側及夏帽子均一提供	十一 日	単マント、コート陳列		大和模様応用半襟陳列会	
十五日	夏の特別売出し (五日間)	夏半襟新柄陳列会			寄裂見切反物大売出し		新製流行洋傘陳列会	
					五月人形陳列			
					春の特別売出し (五日間)			

大正六年下半年期 第十六期営業報告書					
名古屋営業部					
十一月	十月	九月	八月	七月	
一日 続大和模様応用半襟陳列会 舶来中折帽子新荷披露 仕立座蒲団及出来上りトンビ特価提供	一日 冬物新荷大売出し 秋季新製品陳列会 御婚礼擬式式服陳列会 大島紬特価提供(二日間) 蛭子講連合大売出し(三日間)	十五日 続大和模様図案陳列並に同応用作品陳列会 仕立夜具及座布団発売 新形中折帽子均一売出し	十五日 続大和模様図案陳列並に同応用作品陳列会 仕立夜具及座布団発売 新形中折帽子均一売出し	十一日 薄衣大売出し 石川県工芸品陳列会	十一日 中元大売出し 水戸市、福島県平町、福島市、若松市、仙台市ニ於テ巡行陳列会(十八日迄) 二十日 福島県郡山町、白河町、宇都宮市、前橋市、高崎市ニ於テ巡行陳列会(八月二日迄)
東京営業部					
		十日 続大和模様図案陳列会	一日 夏物棚さらへ大売出し(五日間)	一日 中元大売出し 水戸市、福島県平町、福島市、若松市、仙台市ニ於テ巡行陳列会(十八日迄) 二十日 福島県郡山町、白河町、宇都宮市、前橋市、高崎市ニ於テ巡行陳列会(八月二日迄)	
	一日 新築披露大売出し 冬衣新柄陳列会 京美会特製丸帯陳列 よせきれ見切反物大売出し 余興 下谷芸妓連開店新曲舞踊(二日間) 十三日 第二回コドモ会(二日間) 十五日 七五三祝着陳列会 続大和模様応用半襟陳列会 新柄ショール売出し 余興 舞踊会(七日間) 二十三日 前橋市ニ於テ巡行陳列会(二日間)				

名古屋営業部		東京営業部	
一 月	十二月	十一月	
二 日 新年大売出し 十美人着装初春衣裳競へ陳列	十 日 毛皮製品陳列会 歳暮大売出し	七 日 徳用品大売出し(十八日迄) 文展応用特製品陳列会 同好会特製丸帯陳列会 コドモ品部開設披露 秋のコドモ会 余興 お伽講演(土日曜日) お伽神楽(毎日開演) 二十一日 陶磁器名作品陳列会並ニ大國父子鍍金作品展覧会	一 日 銘仙新柄大売出し 実用銘仙特価提供 文展応用品陳列会 重陽会主催大輪菊花陳列会 余興 三曲演奏会(五日間) 秋の特別売出し(五日間) 花蝶羽二重特別景品付売出し 同好会特製丸帯陳列会 家庭ノ趣味会主催 女子技芸品展覧会 アイヌ研究会主催 アイヌ族研究資料展覧会 寸樹会正風会主催 盆景陳列会
二 日 新年大売出し 福引抽籤ニテ景品呈上 五日 第三回コドモ会(三日間) 十八日 花柳家元一派舞踊(三日間) 二十四日 たぬき会演奏会	十 日 歳暮大売出し 特製羽子板陳列会 三大実用品特別提供	十七日 同好会特製丸帯陳列会	

まず、この時期の催事展開において営業による商品販売が、現在のように毎月行われていたことがあげられる。⁽²⁵⁾ 当然、月ごとの恒例の催事や目玉的な催事が開催されていた。恒例の催事は二種類に分けられる。一つは、第十一・十三・十五期の三月の初めに

名古屋本店でみられる株いとうの「開店記念大売出し」や、「第九回新柄陳列会」、「第五回ダリヤ陳列会」というように回数が付されて連続して展開されていた催事である。⁽²⁶⁾ もう一つは、季節ごとの大売出しや陳列会である。例えば、一

月の「新年大売出し」から四月の「春衣」、六月の「夏物」、六月の「中元贈答品」、十月の「冬物」、十二月の「歳暮大売出し」などである。そして二月の「雛人形陳列会」や四月の「五月幟及武者人形陳列会」、五・六月の「浴衣地陳列会」や十月の「七五三祝着陳列会」、十二月の「羽子板陳列会」、また「秋季新製品陳列会」がみられる。このことから、春・夏・秋・冬の季節商品の頃合いをみはからって販売するシステムが完成していた。⁽²⁷⁾

目玉的な催事は、現下では特価品販売を主として指すことが多いが、大正中期では減多に行われない特別な催事を意味し、果敢に取り組まれてきた。⁽²⁸⁾ 大正四年では、「お芝居人形並二俳優顔絵陳列会」や「カメラ俱樂部主催写真展覧会」などがみられる。名古屋本店では、余興として「狂言」、「合奏会」、「舞踊」などや、「ハーモニイ会員洋楽」の演奏会も催していた。東京支店でも余興以外に、「東池坊生花秋季大会」や「花柳家元一派舞踊」など共催の催事が行われていた。現在のように文化的催物の意味合いが強い催事も、日本の百貨店化過程で展開されてきたことがわかる。⁽²⁹⁾ これらの催事は顧客の誘引策でもあり、恒例の催事の間を埋めていく役目もあった。⁽³⁰⁾

顧客を店内に引きつける販売促進策としては、余興の他に「景品」、「記念品」、「福引」なども存在し、現代に連結する催事を成功させる方法の起源がみられた。

次に、呉服類の「特価販売」、「均一販売」、「割引販売」、「徳用品大売出し」のような、現在のバーゲンセールの催事も、百貨店

化過程のなかで大いに企画されていたことにも注視しておかねばならない。⁽³¹⁾ 大正中期はまだ呉服類であったが、「実用格安品大売出し」も展開され、これは徐々に日用品も含めて大衆向け販売へと連なっていたことを示そう。⁽³²⁾

最後に刮目しておくことは、名古屋本店と東京支店ともに催事の一歩多い月が、四・五月と十・十一月であったということである。東京支店では、四・五月に引き続き六・七月も多くなっていた。さらに全体的に言えば、この時期では名古屋本店に劣らず東京支店も催事数が多く、「特価」、「特別」と題した販売を活発に開催していた。⁽³³⁾ ここに東京支店の新館完成による積極的な催事が進められ、売上高と純利益ともに急激に伸びていく営業動向が見事に窺える。⁽³⁴⁾

当時の百貨店化過程において、可能な限り大きな面積を有する新店舗の存在という経営事情が営業動向に連関していたことが汲み取れる。これは、三越が増改築を進めたことと重なる。つまり、大正中期の百貨店にとって売場面積の確保が、より多くの催事や商品販売を利益と結びつけることになり、何よりも優先されたのであった。⁽³⁵⁾ それが、東京の三越や名古屋の株いとうが百貨店化を先駆的に成功させた不可欠な要因であった。

現在、百貨店に限らず、各種の小売業態で店舗改装・拡張が絶えず行われている。それに付随して、リニューアルセールが営業戦略の一つとなっているのは、このことが最大の理由であり、原点でもある。⁽³⁶⁾

二 大正七年二月から同十年一月までの経営動向と催事展開

この期間においても、最初に株いとうの大正七（一九一八）年から同九年までの全体的な経営動向について触れておこう。

第一は、大正七年三月二十五日に新株の募集により資本金が一〇〇万円増加し、合計二〇〇万円へと増額したことである。⁽³⁷⁾ もちろん、株主数も増え一五七名になった。⁽³⁸⁾

第二は、大正七年三月から着工された名古屋本店の増改築が、十二月三十一日に竣成したことである。⁽³⁹⁾ これは手狭となった名古屋本店を拡大し、エレベーターなどの新設備を導入するために、新たな経営展開として遂行されたものである。⁽⁴⁰⁾ 資本金の増加による名古屋本店の店舗への梃子入れだった。

第三は、株いとうの創立満十年の記念式が大正九年三月五日に挙行され、名古屋本店において「信条」が発表されたことである。⁽⁴¹⁾ それにあたり、同年二月二十八日に名古屋営業部陳列場西側

増築の竣工と、翌三月一日には名古屋営業部において「開店十年記念百貨共進会」が開催され、大盛況であった。⁽⁴²⁾

第四は、資本金がわずか二年後の大正九年四月一日に、第一の二〇〇万円から五〇〇万円へと大幅に増加されたことである。⁽⁴³⁾ これは大戦景気の影響もあつたが、開業十周年に際し、株いとうが百貨店としての確立を目指したと目される経営の一層の飛躍を内外に認識させるものであつた。⁽⁴⁴⁾ それと資本金増資を決定した株主総会を開催した場所が、名古屋市西区茶屋町の「伊藤総本店」であつたことを重要視しておかねばならない。なぜならば、大正中期の伊藤家が多角的事業展開の軌道に乗り始め、地方財閥として成立した時期でもあつたからである。⁽⁴⁵⁾

第一節の期間に引き続き、この三年間においても、株いとうの意欲的な四つの経営展開がみられた。⁽⁴⁶⁾ これらのことは、いずれも同社の百貨店化過程の最終段階を意味していた。

では、このような時期の催事一覧表を載せて、先の動向との関連性をみていこう。

名古屋営業部		東京営業部	
二 月	一 日 三大実用品特価大売出し（三日間） 銘仙節糸類、大島染紉、モスリン特価販売 十五日 帝室技芸員故宮川香山現伊東陶山作品陶磁器展覧会（五日間） 雛人形陳列会	一 日 雛人形陳列会 九 日 第四回コードモ会（三日間） 十三日 冬物棚さらへ大売出し（五日間） 二十三日 第五回コードモ会（二日間）	

大正七（一九一八）年上半期
第十七期営業報告書

五 月	四 月	三 月
一 日 夏物新柄陳列会 (五日間) 夏帽子新荷売出し 指環特価売出し (十五日迄) 婦人洋傘特価売出し (十五日迄) 中形と絞り陳列会 (十九日迄) 黒田秀谷書房春季作品展覧会 夏夜具座蒲団蚊帳売出し 麦稈帽子、婦人草履均一売出し 御徳用品大売出し (三日間) 単衣地、浴衣地、友仙モス特価提供	一 日 新柄春衣大売出し 新柄片側帯陳列会 五日 諸国名物菓子珍味品展覧会 (十四日迄) 仕立単トンビ均一提供 (月末迄) 十五日 五月人形陳列会 セル、ネル新荷披露	一 日 第九回開店記念大売出し (三日間) 余興 大福引、商品券呈上 十五日 貴金屬小間物新製品展覧会 中沢弘光氏洋画展覧会 (五日間) 婦人洋傘スカーフ陳列会 学生靴及用具売出し 二十三日 関西美工会作品展覧会 (五日間)
一 日 かすり陳列会 有松絞陳列会 新型夏帽子売出し 麦稈帽特価均一提供 十五日 中形浴衣地陳列会 夏半襟陳列会 ばら陳列会 静岡市、静岡県沼津町、神奈川県小田原町、横須賀市ニ於テ 巡行陳列会挙行 (二十六日迄、各二日間) 第四回珊瑚会絵画展覧会 (三十日迄)	一 日 春季新柄陳列会 流行衣裳くらべ 五月人形陳列会 よせきれ見切反物売出し 新着セル、ネル売出し 十三日 春の特価品提供 片側帯、染緋、婦人洋傘均一提供 二十二日 東京履物業組合主催 日本履物品博覧会 (五月十二日迄)	七日 名古屋勸業協会主催 名古屋物産陳列会 (二十七日迄) 余興 名古屋西川門下芸妓連舞踊 (十四日迄) 絞り染実演 (二十七日迄) 御召と絞り陳列会 新柄半襟陳列会 新製洋傘陳列会 十五日 団司後援会主催 豊竹団司綴帳披露演芸会 十九日 鈴木ヴァイオリン製作所主催 西洋音楽演奏会 (二十四日迄) 大日本花卉園芸組合主催 花卉盆栽陳列会 (四月二十日迄)

大正七年下半期 第十八期営業報告書		名古屋営業部		東京営業部	
八 月		七 月	六 月		
一 日 三 日	白地、中形浴衣地均一提供（二日間） 盆石、文人投入、盛花陳列会（二日間）	一 日 二十 日	一 日 五 日 十 日 十五 日 二十 日	一 日 五 日 十 日 二十 日	一 日 五 日 十 日 二十 日
		薄もの大売出し（三日間） 薄もの新製品特別陳列 夏もの見切品特別販売 夏物大見切売出し（三日間） 明石縮、御召縮、縞紹羽織地、銘仙類、友仙、女帯地、出来上り浴衣、単衣地特価提供 婦人洋傘、夏帽子割引	特選浴衣地陳列会（七日迄） 夏向半襟新柄会（同） 夏物大売出し（三日間） 中元贈答品大売出し 夏の家庭用具陳列会 小口商品券発売 伊勢崎銘仙、中形真岡、粹好帯特価提供（二日間） 染緋、クレープシャツ類、輕装帯、婦人洋傘、子供夏帽子特価提供（二日間）	夏衣大売出し よせきれ格安反物売出し 団扇、扇子、岐阜提灯陳列 皐月陳列会 山形市、山形県酒田町、秋田市、弘前市、青森市ニ於テ巡行陳列会挙行（各二日間） 夏の特別売出し（十六日迄） 御召、丸帯、片側帯、婦人洋傘、染緋、中形浴衣地、特価提供 特価品提供 クレープワイシャツ、花蝶羽二重帯側、查下	夏物棚さらへ大売出し（五日間） 東京朝顔会主催 大輪変咲朝顔品評会
	名古屋営業部				東京営業部

大正八（一九一九）年上半期 第十九期営業報告書		名古屋営業部		東京営業部	
十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月
十一日 小口商品券無料進呈（十日間） 景品 抽籤ニテ小口商品券進呈	二日 新年大売出し（三日間） 景品 さかえ袋呈上 六日 コドモ会（五日間） お伽講演、余興 お伽神楽	二日 新年大売出し（七日間） 福引 景品呈上 五日 第六回コドモ会（三日間） 三曲演奏会（三日間） 十日 東京府神奈川県千葉葉連合 十五日 乾海苔品評会（六日間）	一日 見切品特別大売出し（三日間） 十五日 雛人形陳列会	一日 特製雛人形陳列会 名工作品人形陳列会 七日 年一回冬物棚さらへ売出し（五日間）	一日 絞りと小紋染陳列会 片側帯陳列会 十五日 新製洋傘、履物陳列 春向半襟陳列会 大日本園芸組合出品 西洋草花陳列（即売） 白日会絵画展覧会（十九日迄） 池上秀畝社中 伝神洞第壹回絵画展覧会（二十七日迄）
一月	三月	四月	三月	四月	三月
二日 新年大売出し（三日間） 景品 さかえ袋呈上 六日 コドモ会（五日間） お伽講演、余興 お伽神楽	八日 美術工芸品展覧会（十二日迄） 十五日 新柄片側帯陳列会（二十三日迄） 婦人洋傘履物陳列会 友禅モス、本場銘仙均一提供（二日間） 小原流盛花会（二日間） 愛知社主催 二十一日 第一回愛知社美術展覧会（五日間）	一日 春衣大売出し（三日間） セル、ネル新柄陳列（七日間） 紺と小紋陳列会（同） 出来上り単トンビ均一提供	一日 開店記念大売出し（三日間） 余興 大福引、小口商品券呈上 八日 美術工芸品展覧会（十二日迄） 十五日 新柄片側帯陳列会（二十三日迄） 婦人洋傘履物陳列会 友禅モス、本場銘仙均一提供（二日間） 小原流盛花会（二日間） 愛知社主催 二十一日 第一回愛知社美術展覧会（五日間）	一日 絞りと小紋染陳列会 片側帯陳列会 十五日 新製洋傘、履物陳列 春向半襟陳列会 大日本園芸組合出品 西洋草花陳列（即売） 白日会絵画展覧会（十九日迄） 池上秀畝社中 伝神洞第壹回絵画展覧会（二十七日迄）	一日 絞りと小紋染陳列会 片側帯陳列会 十五日 新製洋傘、履物陳列 春向半襟陳列会 大日本園芸組合出品 西洋草花陳列（即売） 白日会絵画展覧会（十九日迄） 池上秀畝社中 伝神洞第壹回絵画展覧会（二十七日迄）

七 月	六 月	五 月	四 月
二 日 薄物大売出し (三日間) 十九 日 夏物見切大売出し (三日間)	一 日 特選浴衣陳列会 (七日間) 五 日 夏物大売出し (三日間) 十 日 縮織物陳列会 中元贈答品大売出し	一 日 夏衣新柄陳列会 夏半襟陳列会 (七日間) 新型夏帽子売出し 蚊帳夏座蒲団特価発売 婦人洋傘特価発売 綿ネル、染緋、婦人草履均一提供 国方林三個人彫刻展覧会 (四日間) 中形、絞り浴衣地陳列会 印度更紗陳列 仕立紹羽織特価提供 新型麦稈帽子均一提供 伊勢崎銘仙友禅モス均一提供 京都柳美会作品展覧会 (五日間)	十 日 別染絵端縫模様陳列会 (四日間) 十五 日 名作百茶碗会 (三日間) 新柄友禅モス陳列会 特選五月人形陳列会
一 日 中元大売出し 二十六 日 武蔵野会主催 江戸研究資料展覧会 同上講演会 (二日間)	一 日 夏衣大売出し よせきれ見切反物売出し 皐月陳列 (即売) 夏の特別売出し (七日間) 縞紹羽織地、お召、友禅縮緬、丸帯、片側帯以上新柄品破格特価	一 日 中形浴衣地陳列会 夏半えり陳列 新型夏帽子売出し 夏衣裳陳列会 縮緬浴衣地陳列 名古屋絞り陳列 絞り染実演 十六 日 巡行陳列会 金沢市三日間、富山市二日間、新潟市三日間、長岡市二日間、(三十日迄) 二十 日 団扇、扇子、簾、提灯陳列	一 日 春季新柄陳列会 よせきれ見切反物売出し 新着ネル、セル売出し 新型マント、コート陳列 特製五月人形陳列会 縞ワイシャツ、婦人洋傘特価提供 春の特別売出し (六日間) お召、大島、友禅、丸帯、片側帯等破格大割引

大正八年下半期
第二十期営業報告書

十一月	十月	九月	八月	
一 日 新柄半襟陳列会（七日間） 抑香社絵画展覧会（五日間） 特製 子供トンビ発売 仕立トンビ特価提供 名作器陳列会（五日間） 巡行陳列会	一 日 小紋と御召陳列会（五日間） 流行シヨール陳列会 冬帽子大売出し 新型中折帽子特価提供 名古屋勸業協会主催 市制三十年記念物価調節品即売会（十日間） 七五三祝着陳列 えびす講連合大売出し 婚礼衣裳陳列会（七日間）	一 日 懸賞募集 裾模様図案陳列会 別染絵羽模様陳列会（五日間）		名古屋営業部
一 日 流行衣裳陳列会 東京重陽会 大輪菊花品評会 富村特製 家具陳列会 キネマスター社主催 活動俳優原画展覧会（六日間） 毛皮製品陳列会	一 日 大島紬新柄陳列会 新製 シヨール陳列 新型 冬帽子売出し よせきれ見切反物売出し 格安品売出し（三日間） 御召、丸帯、大島紬、友仙縮緬、新大島、染かすり、其他 雑貨類 七五三祝着陳列 半襟新柄陳列 特製マント、コート陳列 米人武威氏所蔵 久保田米僊画伯遺墨展覧会（六日間） 漆芸会主催 第二回漆器展覧会	一 日 夏物棚さらへ売出し（五日間） 東京朝顔品評会（五日間） 一 日 懸賞募集 裾模様図案陳列会 藤華会員出品 秋の流行品展覧会（十日間） 池田輝方社中 曙会第二回絵画展覧会		東京営業部

大正九(一九二〇)年上半期 第二十一期営業報告書		名古屋営業部		東京営業部	
二 月		十一月	十二月	一 月	
二、三日 特売デー 木綿縞、銘仙、裏地、染紵、モスリン、メリヤス、履物類	十日 雛人形陳列会	十四日 金城菊花研究会主催 菊花陳列会 (二日間) 池上秀畝社中 伝神洞画芸作品展覧会 (五日間) 京都好尚会丸帯陳列会 (五日間)	一日 歳暮大売出し 毛皮製品陳列会 (六日間) 防寒用品陳列会 (六日間) 年末年始贈答品陳列 実用格安品売出し 正月用家庭道具陳列 羽子板破魔弓陳列	一日 歳暮大売出し 御贈答御用品陳列 各種特売品提供 特製 羽子板陳列会 よせきれ見切反物大売出し 年末の特価大提供 (五日間) 高貴織、銘仙、染かすり、木綿縞、シャツ、履物	十一日 特製雛人形陳列会 年一回冬物棚さらへ大売出し (五日間)
			十五日 新年大売出し (三日間) 大福引、小口商品券呈上 お徳用品大売出し (三日間) 児童用品大売出し (三日間) コドモ会 (十一日迄) 余興 歌劇、お伽噺、山雀の曲芸等 名古屋則天会主催 現代插花則天門華道插花会 (二日間)	三日 新年福引大売出し 五、六、七日 第七回コドモ会 十日 新弘社主催 電車ポスター展覧会 (三日間)	

五 月		四 月		三 月		
七 日 愛友写真倶楽部主催 写真作品展覧会（三日間） 二十日 最新安値大売出し（月末迄）	二十日	二十日	十五日 閔雪画伯作品展覧会（五日間） 武者人形陳列会 新型夏帽子売出し 婦人洋傘特価提供 春夏物大廉売（三日間） 銘仙、御召、大島、綾糸、帶地等	十五日	一日 開店十年記念百貨共進会（四月三日迄） 施設 即売部、特別出品部、諸国名産品売店、優待室、常 設余興場、食堂、喫茶室 余興 芸妓新曲舞踊、お伽神楽、奇術等 景品 複式福引、小口商品券、金側時計、其他進呈 新柄片側帯陳列会 婦人洋傘陳列会 出来上り単トンビ特価提供	名古屋営業部
十五日 最新安値品大売出し（八日間） 二十一日 名古屋絞り陳列会 皐月陳列会	十五日	十三日	一日 春衣大売出し よせきれ見切反物大売出し 金銀箔置実演供覧 特製五月人形陳列会 江戸協会主催 江戸風俗展覧会 ネル、セル新柄陳列 新製仕立夏マント陳列 春向新製仕立コート陳列 春の特別売出し（五日間）	二十一日	一日 新柄片側帯陳列会 新製洋傘、履物、洋杖陳列会 八日 鏑木清方氏社中 郷土会絵画展覧会（七日間） 春季新柄特製品陳列会 春向半襟陳列会 池上秀敏氏社中 伝神洞絵画展覧会（七日間） 片側帯破格売出し（五日間）	東京営業部
十五日 最新安値品大売出し（八日間） 二十一日 名古屋絞り陳列会 皐月陳列会	十五日	十三日	一日 春衣大売出し よせきれ見切反物大売出し 金銀箔置実演供覧 特製五月人形陳列会 江戸協会主催 江戸風俗展覧会 ネル、セル新柄陳列 新製仕立夏マント陳列 春向新製仕立コート陳列 春の特別売出し（五日間）	二十一日	一日 新柄片側帯陳列会 新製洋傘、履物、洋杖陳列会 八日 鏑木清方氏社中 郷土会絵画展覧会（七日間） 春季新柄特製品陳列会 春向半襟陳列会 池上秀敏氏社中 伝神洞絵画展覧会（七日間） 片側帯破格売出し（五日間）	東京営業部

十二月	十一月	十 月	
一 日 歳暮大出し 十 日 毛皮製品陳列会（七日迄） 歳末年始贈答品大出し 実用格安品陳列 特製羽子板破魔弓陳列 正月用家庭道具陳列 特価品提供 十二 日 金製羽織紐、指環、毛布、座蒲団 歳暮大廉売（九日間） 御召、大島、銘仙、其他大割引品提供	一 日 柳香社絵画展覧会（五日間） 新柄半襟陳列会 廉価品提供 十 日 群馬県 織物陳列会（七日間） 栃木県 織物陳列会（七日間） お徳用品大出し（七日間） 大島、御召、絹布各種 十八 日 仕立衣裳陳列会（二十三日迄） 三大特価品提供 御紋付地、御袴、中山帽子 名古屋日日新聞社主催 現代大家作品展覧会（二日間） 各家 陶磁器陳列会（三日間） 作品 二十五 日	十五日 婚礼衣裳陳列会（二十五日迄） 好尚会特製 丸帯陳列会 今秋 ショール陳列会 流行 二十 日 えびす講連合大出し（三日間）	名古屋営業部
一 日 歳暮大出し 御贈答用品多数陳列 よせきれ見切反物仕着縞売出し 雑貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末特価品売出し（六日間） 縞御召、高貴、銘仙、新大島、仕着縞、毛布 十 日	二 日 群馬県 織物陳列会 栃木県 重陽会主催 大輪菊花品評会 格安家具売出し 冬物格安品売出し（五日間） 銘仙、御召、高貴織、八端、大島、色羽二重、友禅羽二重、 其他季節向破格品多数提供 日本工芸美術協会主催 美術工芸品展覧会（五日間） 二十五 日	十五日 生活改善同盟会指導 女児改良服展覧会 新柄半襟陳列 七五三祝着陳列	東京営業部

一 月	
二 日	新年大売出し(三日間) 開運福引 小口商品券進呈 余興 手品、三曲合奏
五 日	余興 お伽噺、音楽、滑稽音曲 コドモ会(三日間)
十五日	特価デー(三日間) 御召、銘仙、友禅縮緬、友禅モスリン等
三 日	新年福引大売出し(七日間)
七 日	第八回コドモ会(三日間)
二十二日	臨時コドモ会(二日間) 久留島武彦氏帰朝歓迎ノ為メ

この時期においても毎月催事が両店において、前節で示した季節的な恒例の催事を中心に構成されていたことがわかる。加えて、前期間と比較して、名古屋本店の増改築の増床によつて陳列場が拡大し、催事が増加したことが如実に現れている。⁽⁴⁷⁾ それにより大正中期に部門別管理制が確立したことが、この間髪を入れない催事展開の営業動向からも読み取ることができる。⁽⁴⁸⁾

とくに、この期間に新たな目玉的な催事が登場した。一覧表で判明するように、目立ち始めたのが雑貨類の販売である。⁽⁴⁹⁾ 大正七年三月一日から名古屋本店で「貴金属小間物新製品展覧会」が開かれたことである。東京支店では、同年十一月十日に「ワイシャツ、ネクタイ特価提供」が催され、この期間の以前からみられたマント、コート、シヨール、洋傘などの陳列販売も一段と展開された。その後、大正八年十月十三日から三日間にわたり、東京支店で雑貨類の格安販売が行われ、翌九年八月十六日から五日間にわたつて、名古屋本店で「貴金属品徹底的値下売出し」が開催された。

この時期は、前節からみられたように東京支店で頻繁に企画さ

れた絵画展覧会に対して、名古屋本店では「宮川香山」、「伊藤陶山」、「清風与平」などの有名作家の個展を含めて、陶磁器の催事が多くプランニングされたことが特色にあげられる。この背景には、愛知県とその周辺が陶磁器産地であつたことがあり、顧客の目を引きつける好適な展覧会となつた。⁽⁵⁰⁾ 前期間で「花器陳列会」や「石川県工芸品陳列会」など美術工芸品の販売があつたが、本格的に増加したのは大正七年以降と言えよう。

前期間から、株いとうでは「大島かすり」・「大島紬」・「名古屋絞」・「有松絞」など、地元および地方名産の織物や木綿の着物生地の販売を開催していた。⁽⁵¹⁾ それが大正七年からは呉服物類以外に、同年四月五日よりの「諸国名物菓子珍味品展覧会」(十日間)や、同年十一月一日からの「八丈島々庁主催八丈島物産陳列会」(名古屋本店では七日間・東京支店では十四日間)が長期間にわたり展開され始めた。かつ、朝顔・バラ・菊花など季節の生花・盛花類の品評会や陳列会が前期間よりも多く見受けられるようになり、地方特産物の販売の端緒となつた時期と言える。⁽⁵²⁾ このこと

からも、季節を十分に活かした催事が意識的に企画されていたことがわかる。

株いとうでは、設立前の明治三十九（一九〇六）年十月から図案を懸賞募集として公募して、優良な作品を集めて一般に公表し、社会的に好評になった特殊な催事がみられた。⁽³³⁾ そのような会を推進するために株いとうでは、染織の若手の図案を全国から募集して紹介する「台麓図案会」を、大正九年五月東京支店に事務所設置とともに創設した。すぐさま東京支店は、同年七月二十一日に「台麓図案会第一回作品展覧会」を開催した。⁽³⁴⁾

大正七年六月十日に名古屋本店、同年七月一日に東京支店が、「小口商品券」を発売したことにも着目しておかねばならない。株いとうでの商品券の登場は、明治四十四年十二月であったが、三越よりも二年以上早く新たに「小口」を発行した。これによって、株いとうは、より多くの顧客への百貨店における商品販売の浸透を狙った。⁽³⁵⁾

現下の百貨店では、ギフトなどの贈答品用に主に使用されているものである。大正中期では、顧客の窓口を拡大する意味での最適な営業戦略であり、百貨店の大衆化に連動することになった。これも百貨店化過程を示し、現在の百貨店ならびに小売業態全体の特徴のみならず、多種の金券販売へ連なっていく重要な契機となった。

株いとうは、大戦景気と戦後恐慌の好況・不況期と連続しながら、それを上手く活用して二度にわたる資本金の増額を遂行し、

百貨店として成立していった時期であった。⁽³⁶⁾ この期間の同社の催事展開は、絵画や工芸品の美術品展覧会や地方特産物販売が急増した。このような催物が、文化的側面においても愛知周辺さらには全国の地方都市へ株いとうの百貨店経営の展開を知られる絶好の機会となった。

売場面積が拡張されることで、雑貨部門の商品が拡大し、部門別管理制が確立した時期であった。⁽³⁷⁾ 経営動向と催事展開を重ね合わせることで、ここまで分析してきたように、株いとうが大正九年までに百貨店として成立したことが判明した。⁽³⁸⁾

三 大正十年二月から同十二年一月までの経営動向と催事展開

株いとうの大正十（一九二一）年から同十一年までの経営動向について指摘しておこう。

第一は、社長伊藤祐民自らが長期の「欧米視察」へ赴いたことである。⁽³⁹⁾ 大正十年十月二日に名古屋を出発し、同月四日に神戸から「賀茂丸」にて渡航し、翌十一年三月二十七日に横浜へ帰朝した。この半年間にわたる視察は、これ以後の株いとうの経営展開に反映された。⁽⁴⁰⁾

第二は、大正十一年九月一・二日に臨時重役会を開き、両日にかけて議論が展開され、「大阪支店建設二関スル件」が「議定」されたことである。⁽⁴¹⁾ その後、同年九月十五日に大阪支店の建設が

発表されたと同時に、そのための準備委員も任命された。同年十月七日に大阪支店天王寺舎宅の建設の敷地および、同月二十五日に大阪支店仮営業場敷地の地鎮祭が執り行われた。次いで十二月二十日に、臨時株主総会が伊藤総本店において開かれ、大阪支店の設置の案件が議決された。翌々日の二十二日に大阪支店の仮営業場の上棟式が行われた。⁽⁸²⁾

これらの動向は、いずれも株いとうの百貨店経営としての新展開に繋がる切要な内容であり、同社が三越に先んじて三つ目の店舗を開店する段階に入っていた。⁽⁸³⁾
この時期の催事一覧表を載せて、名古屋本店と東京支店の二店舗体制の催事展開による最終的な営業動向をつまびらかにしている。

大正十(一九二一)年上半期
第二十三期営業報告書

名古屋営業部		東京営業部	
五月 日ヨリ 棚ざらへ大売出し(三日間)	五月 日ヨリ 雛人形陳列会	一月 日ヨリ 特製雛人形陳列会	一月 日ヨリ 春季新柄特製品陳列
二十一日ヨリ 名優素踊会	松本幸四郎丈沢村宗十郎丈出演	十五日ヨリ 新柄片側帯陳列会	五月 日ヨリ 春向半襟陳列 女兒改良服新製品発売 鐺木清方氏社中郷土会絵画展覧会 春衣格安品提供(六日間)
一日ヨリ 開店記念デー(七日間)	余興 滑稽曲芸、ダンス 大福引、小口商品券呈上 春季新柄大売出し 丸帯片側帯陳列会 格安御徳用品多数陳列 特製婦人洋傘陳列会 洋服特価提供 脊広服、レインコート 名作器陳列会(十三日迄) 諸国名産菓子珍味品陳列会 御入學用品各種取揃陳列 特価品提供(三日間) 御召、片側帯、銘仙類	十三日ヨリ 山之内多門氏社中若菜会絵画展覧会 新製洋傘履物陳列 池上秀畝氏社中伝神洞絵画展覧会	十五日ヨリ 小紋錦紗、大島銘仙、友禪ト絞り、変り織帯側、新大島

(28)

五月		六月		七月	
二十一日ヨリ	京都好尚会 夏帯の会(五日間) 大特価品提供 伊勢崎、兵子帯、紹羽織地、女単帯、中形等	一日ヨリ	夏衣大売出し(七日間) 新潟県物産振興会主催 新潟県物産陳列会(七日間) 中元贈答品大売出し 大特価品提供	一日ヨリ	中元大売出し 大特価品提供(二日間) 小紋紹、夏友禅、白紬 大特価品提供(二日間) 明石縮、夏帯地、帷子地 第四回愛友写真倶楽部 美術写真印画展覧会(三日間) 台麓図案会第三回作品展覧会
二十一日ヨリ	台麓図案会第二回作品展覧会 並ニ応用中形浴衣地陳列	十五日ヨリ	夏衣大売出し 扇子、簾、提灯陳列 夏家具類売出し よせぎれ見切反物大売出し 夏衣特価売出し(五日間) 巡行陳列会 山形市(二日間) 秋田市(二日間) 弘前市(二日間) 青森市(二日間) 盛岡市(二日間)	一日ヨリ	中元大売出し 御贈答用品多数陳列 御仕着地其他格安品提供 台麓図案会第三回作品展覧会 巡行陳列会 前橋市(二日間) 宇都宮市(二日間) 水戸市(二日間) 第十七回新橋をとめ会

大正十年下半期
第二十四期営業報告書

十 月			九 月			八 月		
一 日 ヨリ	七 日 ヨリ	十 五 日 ヨリ	二 十 二 日 ヨリ	十 日 ヨリ	七 日 ヨリ	一 日 ヨリ	十 日 ヨリ	一 日 ヨリ
冬衣大売出し 特製冬トンビ売出し 流行シヨール陳列会 特価品提供 鐘絹友禪、大島紬、伊勢崎紬等 婚礼衣裳陳列会 西陣好尚会丸帯陳列会 特価品提供 丸帯、友禪、銘仙、中折帽子等 えびす講連合大売出し(五日間) 衣裳着付実演会(三日間) 特製半襟陳列会			岩手県物産陳列会(七日間) 岩手県主催 新衣裳陳列会 台麓図案会特選 御召、帯地、友禪モス等			秋向新柄友禪モス陳列会 冬向女兒改良服陳列 粹向御召特別陳列(二日間) 特価品提供 御召、帯地、友禪モス等	夏の棚ざらへ(三日間) 名古屋美術院展覧会(三日間) 入紋上絵競技会(三日間) 大阪朝日新聞社蒐集 世界大戦ボスター展覧会(三日間) 中京美髪新聞社主催 鬘髮陳列大会(五日間)	夏の棚ざらへ(三日間) 名古屋美術院展覧会(三日間) 入紋上絵競技会(三日間) 大阪朝日新聞社蒐集 世界大戦ボスター展覧会(三日間) 中京美髪新聞社主催 鬘髮陳列大会(五日間)
一 日 ヨリ	十 日 ヨリ	二 十 一 日 ヨリ	五 日 ヨリ	二 十 一 日 ヨリ	二 十 八 日 ヨリ	一 日 ヨリ	十 三 日 ヨリ	一 日 ヨリ
冬衣大売出し 流行シヨール、半襟陳列 よせぎれ見切反物売出し 新型冬帽子売出し 両毛特産織物陳列会 七五三御祝着陳列会 コードモ服陳列会 御召小紋陳列会 臨時格安品提供			台麓図案会特選 秋の流行品陳列会(十日間) 秋の特別大売出し(五日間) 臨時巡行売出し 前橋市(二日間) 桐生市(二日間)			夏の棚ざらへ(五日間) ゆかた地均一売出し(三日間) 夏季コードモ会 余興 お伽噺、奇術、曲芸等	夏の棚ざらへ(五日間) ゆかた地均一売出し(三日間) 夏季コードモ会 余興 お伽噺、奇術、曲芸等	夏の棚ざらへ(五日間) ゆかた地均一売出し(三日間) 夏季コードモ会 余興 お伽噺、奇術、曲芸等

十一月			十二月			一 月			十 月		
二十九日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	二十日ヨリ	十三日ヨリ	七 日ヨリ	一 日ヨリ	三十日ヨリ	二十七日ヨリ	二十一日ヨリ	七五三祝着陳列	近藤浩一路画伯作品展覧会
毛皮陳列会	美術院同人絵画展覧会（四日間） 永楽善五郎氏 新作陶器陳列会（三日間）	婦人訪問服陳列（同） 常用着尺陳列会（五日間） 秋の特価大売出し（四日間） 支那物産陳列会（五日間） 御羽織地、御袴、中山帽子等	お正月用品特売	銘仙、縞琉球、シヨール、子供マント類 特売デー（二十五日迄） 小紋錦紗、友禅モス、木綿縞、指環等	羽子板破魔弓陳列 正月用家庭道具陳列 特価品提供	組合せ反物大廉売（三日間） 名作品特価売立 歳末年始贈答品大売出し 実用格安品陳列	椿貞雄氏洋画展覧会（三日間） 山下竹齋画伯絵画展覧会（三日間）	七五三祝着陳列	近藤浩一路画伯作品展覧会		
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	丸帯訪問服陳列会 臨時格安丸帯提供 特製トンビマント売出し シヨール割引売出し 懸賞募集 常用着尺陳列会				
二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ	十五日ヨリ	八 日ヨリ	一 日ヨリ	一 日ヨリ	二十一日ヨリ	十五日ヨリ	十日ヨリ		
格安家具大売出し	冬物大割引売出し（五日間） 婦人防寒用コート陳列会	常用着尺陳列会	懸賞募集	仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小紋錦紗、御召、高貴織、銘仙、染紵等 格安台所用品売出し 毛布廉売会	格安家具大売出し	よせぎれ見切反物売出し 仕着縞売出し 雜貨格安品提供 特製羽子板陳列 年末格安品提供（五日間） 小					

一 月	
二十一日ヨリ 二十八日ヨリ 句仏上人御染筆画展観（三日間） 台麓図案会作品 ポスター展観（二日間）	名古屋営業部
十五日ヨリ 二十五日ヨリ 鎗木清方氏社中 郷土会絵画展覧会（五日間） 台麓図案会作品ポスター図案展覧会（二日間）	東京営業部

 大正十一（一九二二）年上半期
 第二十五期営業報告書

名古屋営業部		東京営業部	
二 月		三 月	
四 日ヨリ	棚ざらへ大売出し（三日間）	一 日ヨリ	開店記念デー（五日間）
十 日ヨリ	山内多門画伯作品展覧会	十一日ヨリ	春季新柄陳列会
十五 日ヨリ	雛人形陳列会		台麓図案応用染織品、陶磁器陳列
	鐘絹友禅毛斯友禅新柄陳列会		格安御徳用品陳列
			特製洋傘陳列会
			春向小供服陳列
			陶華園万古焼陳列
			春の半襟陳列会
			特製袋帯陳列会
			セル、ネル新柄陳列
			大特価品陳列
			香山六兵衛新作品陶磁器陳列会
			春向背広服
			レインコート 均一売出し
			実用懐中時計
			堅牢男 女靴 特価提供
			尊由氏
			華秋氏 東海道五十三次絵巻物展観
一 日ヨリ	特製雛人形陳列会	一 日ヨリ	新製春衣陳列
十 日ヨリ	冬物棚ざらへ大売出し	十 日ヨリ	入学用品売出し
十五 日ヨリ	新柄片側帯陳列会		台麓図案会第四回作品展覧会
			友禅類陳列
			陶磁器陳列
			春の特別売出し

六 月				五 月				四 月			
一 日ヨリ	八 日ヨリ	十五 日ヨリ	二十一 日ヨリ	一 日ヨリ	六 日ヨリ	十三 日ヨリ	二十一 日ヨリ	一 日ヨリ	三 日ヨリ	四 日ヨリ	八 日ヨリ
春衣大売出し 仕立花見衣裳陳列 描絵模様帯側陳列 夏帽子売出し 三大特価品陳列 雑貨新製品陳列 中京七画伯展覧会 特価デー（三日間） 特製単帯陳列会 新柄小紋モス陳列 御常用着尺陳列 特製五月人形陳列会 京都柳美会工芸品展覧会 漫画展覧会	夏衣大売出し 明石縮、麻布陳列会 特価品提供 中元贈答品大売出し 大廉売（五日間） 格安雑貨売出し 雑貨 均一大売出し（五日間） 呉服	夏衣大売出し よせぎれ見切反物売出し 名古屋絞リ売出し 扇子、簾、提灯陳列 均一品提供 うす物特製品陳列会 夏物特別安値大売出し（六日間）	夏衣大売出し よせぎれ見切反物売出し コドモ夏洋服陳列会 特製中形浴衣地陳列 台麓図案会第六回作品展覧会 並二応用中形陳列会 夏物格安品大売出し 両毛藤華会新製品陳列会	中形浴衣地陳列会 夏の半襟陳列 夏の洋服陳列 女袋帯特価売出し 廉価品提供 夏丸帯陳列会 群馬県 織物陳列会 栃木県 美術院絵画展観 愛友倶楽部写真作品展覧会	夏衣特選品陳列会 よせぎれ見切反物売出し 新型夏帽子売出し コドモ夏洋服陳列会 特製中形浴衣地陳列 台麓図案会第六回作品展覧会 並二応用中形陳列会 夏物格安品大売出し 両毛藤華会新製品陳列会	春衣大売出し 婦人袋帯陳列会 よせぎれ見切反物売出し 東京日々新聞社主催廉売デー賛助特別提供品（五日間） 本場銘仙、久留米緋、絞り片側、紺染緋、友禪モス、名古屋絞 特製五月人形陳列会 実用品臨時大廉売	春衣大売出し 仕立花見衣裳陳列 描絵模様帯側陳列 夏帽子売出し 三大特価品陳列 雑貨新製品陳列 中京七画伯展覧会 特価デー（三日間） 特製単帯陳列会 新柄小紋モス陳列 御常用着尺陳列 特製五月人形陳列会 京都柳美会工芸品展覧会 漫画展覧会				

大正十一年下半期 第二十六期営業報告書		七 月		八 月		九 月		十 月	
	名古屋営業部	一 日ヨリ	中元と大福引（七日間） 中元贈答用売出し 薄もの新荷大売出し 組合せ反物特価（三日間） 奉仕特価（三日間）	一 日ヨリ	夏の棚ざらへ売出し 名古屋美術院 第二十四回洋画展覧会	八 日ヨリ	俳句と俳画の展覧 大特価品提供 第二回かすり品評会	一 日ヨリ	冬着大売出し 西陣好向会丸帯陳列会 婚礼衣裳陳列会 農商務省主催広幅織物普及展覧会 えびす講大売出し 七五三祝着陳列 草風 耕花 両毛織物新製品陳列会 加藤静児氏 滞欧 洋画 展覧
	東京営業部	一 日ヨリ	中元大売出し よせぎれ見切反物多数陳列 雑貨格安品提供 御仕着地売出し 中元格安品提供	一 日ヨリ	棚ざらへ大売出し	一 日ヨリ	靴売場を開設し靴の特価提供 秋の流行品陳列会 農商務省主催広幅織物普及展覧会 冬物格安大売出し 前橋、桐生へ出張販売	一 日ヨリ	冬衣大売出し よせぎれ見切反物売出し 流行シヨール新型冬帽子売出し コドモ洋服陳列会 七五三祝着陳列会 格安反物売出し 婚礼衣裳陳列

十一月	十二月	一月	十月
九 日ヨリ 冬の特別大出し 十五 日ヨリ 国母陛下御買上県下物産陳列会 十七 日ヨリ 鬼頭甕次郎氏油絵展覧（於伊藤銀行中支店） 二十一 日ヨリ 趣味衣裳陳列会 時代頭飾遺品展覧 松岡映丘氏 絵画展覧（於伊藤銀行中支店） 新興大和絵会	一 日ヨリ 歳暮大出し 組合せ反物均一発売 毛皮製品陳列会 新年用敷物陳列会（於伊藤銀行中支店） 各地二日間宛 岐阜、大垣、四日市、浜松、豊橋、岡崎へ出張販売 年末蔵さらへバーゲンデー 十五 日ヨリ お正月用道具陳列会 十七 日ヨリ 並二名作陶磁器特売会（於伊藤銀行中支店） 二十 日ヨリ 呉服の均一売出し 雑貨	二 日ヨリ 新年福引大売出し 五 日ヨリ 第十三回コドモ会（於伊藤銀行中支店） 十一 日ヨリ 春先新柄五品大提供 十七 日ヨリ 欧州美術名作陶磁器陳列会	三十一 日ヨリ 女子技芸品実演会 永楽善五郎氏新作陶磁器陳列
一 日ヨリ 歳暮大出し 贈答品よせぎれ 見切反物売出し 仕着雑貨格安品売出し 特製羽子板陳列 五 日ヨリ 年末格安品売出し	一 日ヨリ 両毛藤華会新製品陳列会 十 日ヨリ 縞染絳染陳列会 ショール割引売出し ワイシャツ特価提供 十五 日ヨリ 冬の特別大出し	三 日ヨリ 新年福引大売出し 六 日ヨリ 第十回コドモ会 十三 日ヨリ 新日本音楽演奏会	

この時期でも無論、月ごとの恒例の催事が展開されていた。目玉的な催事としては、第二節の期間で特徴とされた貴金属や雑貨類があげられる。「時計」、「ヒスイ宝石」、「実用懐中時計」、「格

安家具」、「雑貨格安品」、「雑貨新製品」、あるいは「洋服」の販売と、「靴」売場が開設され、呉服類以外の商品販売が両店で急増した⁶⁴。それに、一覽表から台麓図案会の展覧会関係が多く開催されていた。

たことが目を引く。

三つの期間を通覧すると、以上の催事展開の他に、「コドモ会」⁽⁶⁵⁾、「夜間営業」と「巡行陳列会」のような出張販売が存在していたことがわかる。⁽⁶⁶⁾

「コドモ会」については、三越が「児童博覧会」と銘打って開業当初から力を注入してきた催物の一つである。同様に株いとうでも、目玉のおよび社会文化的な意義を有する催事として開始された。一覧表における最後の大正十一年一月の記載から、名古屋本店の「第十三回」と東京支店の「第十回」まで開催されたことを掴むことができる。大正六年十一月七日に「コドモ品部」が開設され、「児童用品」や「御入学用品各種取揃陳列」などの子供向けの商品も数多く販売していたことが把握できる。⁽⁶⁷⁾

「夜間営業」に関しては、この時期に頻繁に行われていた。⁽⁶⁸⁾「巡行陳列会」については、出張販売として大正四年四月からみられる。それ以前の株いとう創立時の明治四十三年から存在していた重要な店外催事でもあった。これは、遠方の顧客に対する販売ルート⁽⁶⁹⁾の確保方法でもあり、同十一年十二月まで確認できる。

大正十一年までの八年間を概観すると、やはり織物では「銘仙」、染織では「友禅」を中軸として呉服・太物・着物類が販売されていたことは一目瞭然である。ことに、株いとうの「銘仙」類の販売は好評を博し、同社の特色となった屈指の催事であった。これが、株いとうの大正中期の百貨店化過程の重要な催事展開の主流に位置した。⁽⁷⁰⁾ それと催事の開催期間については、短期で

は二・三・五日間が主で長期では七・十日間となっていた。

しかし一方では、指輪や時計を中心とする貴金属や雑貨類の他に第二節でみたマント、コート、ショール、洋傘類と、とりわけ多種の帽子の販売が顕著であった。これは、催事展開の営業動向の分析から呉服店から百貨店への転換を判断するうえで象徴的なメルクマールとなる。⁽⁷¹⁾

したがって、この時期には百貨店の催事展開が呉服類と雑貨類がバランス良く開催されていたことを意味し、その間に特価販売が増えてきたことがわかる。⁽⁷²⁾ この変容が、株いとうの百貨店としての確立とともに、新たに百貨店の大衆化戦略を目指して開設された大阪支店が、以後の株いとうの百貨店としての発展過程を指し示すターニングポイントになった。⁽⁷³⁾

おわりに

以下の六つの結論と三つの課題で締め括りたい。

第一。現在、毎月または週ごとに開催している百貨店の催事とは、大正中期における百貨店化過程そのものであった。それを的確に示したのが、大正四年三月からの催事一覧表を営業報告書に所載していた株いとうであった。それは同社の営業の中核であり、今日盛んに全国の各百貨店で展開されている催事の源流になっていた。すなわち、株いとうでは季節を活用した恒例の催事と目玉的・特徴的な催事がミックスされ、大正十一年の段階で確立して

いた。⁽⁷⁴⁾

第二。三越と同様な催事かつ株いとうのオリジナル的な催事による販売を株いとうは展開し、その後の昭和戦前期までの多くの百貨店業の成立過程とその営業展開に影響を与えた。⁽⁷⁵⁾ 東京と名古屋の地域差から三越との違いがある点は刮目しておかねばならない。なぜならば、過去の百貨店史研究が呉服系百貨店を同一視してきたが、今後の研究の進展により、呉服系百貨店の相違点を見出す欠かせない視点になるからである。⁽⁷⁶⁾

第三。この段階において、株いとうでは現代へ連なる年間催事の図式を、三越と並んで他の白木屋、松屋、高島屋、十合、大丸より先んじて作り上げていた。⁽⁷⁷⁾ その背景には、同社が早々に株式会社化を図ったことがあり、大戦景気を巧みに利用しながら、催事展開がスムーズな顧客集客による営業のメインとなった。そして、株いとうは八年間に急激に資本金を増加していくことで、社名であつた呉服店から百貨店へと転換することができた。⁽⁷⁸⁾

第四。大正八・九年は白木屋、松屋、高島屋、十合、大丸などが大戦景気の企業勃興ブームに乗って、株式会社化することで百貨店化を果たした時期であつた。しかし、催事展開の営業動向からみて、百貨店として成立した株いとうは、百貨店化を大正中期より開始したそれらの百貨店よりも抜きんでていた。⁽⁷⁹⁾ 株いとうは、大正十一年九月に大阪支店開店の計画を立て、大正十二年三月一日に開業した。これにより同社は、当時人口の側面から言えば東京、大阪、名古屋の上位三都市に、日本で最初に百貨店を展開し

た。⁽⁸⁰⁾ これは、三越よりも優位に立った大都市店舗戦略であり、名古屋を中心に東西へ店舗を拡大し、営業の本流となったのが催事であつた。⁽⁸¹⁾

第五。株いとうでも呉服類の販売からであつたが、百貨店の大衆化がみられるようになっていた。株いとうでは、大正六年の東京支店と大正九年の名古屋本店において信条の発布がなされ、百貨店として成立し、次の段階となつた百貨店の大衆化に備えていた。名古屋本店と東京支店の経営展開の共通点と相違点が、今回の催事展開の分析から明らかになつた。⁽⁸²⁾ このことは、同一の百貨店でも地域性があることを示していた。⁽⁸³⁾

第六。近世期の呉服店の引札によって開始された特別販売が、近代期の百貨店へ受け継がれて、現代における百貨店の営業展開の根底の一つとなつていた。⁽⁸⁴⁾ それは、明治三十八年に百貨店化した三越の呉服類の陳列販売から始まり、株いとうが地方大都市の中部圏で拡大し、小売業態全体のバーゲンセールの礎石となつた。⁽⁸⁵⁾

次の機会ですら明らかにすることを目的に、現時点における課題を掲げておく。

第一。この催事展開が、株いとうの経営利益全体でどれだけの割合を占めていたのかである。催事展開は、売上高の数字だけでは計れない役割を果たしていた。しかし催事展開の有無は、現代の百貨店経営でも問題化されている点であり、顧客の集客問題とも密接に関係している解き明かさなければならぬ必須の課題で

ある。

第二。現代で言うバイヤーなどの仕入係が、どのような計画を立て多品種大量の商品を的確に仕入れていたのかである。株いとうの本支店が絶え間ない催事展開を可能にした要因を説明することにもなり、マーチャンダイジングを生み出す端緒となった。戦後の派遣社員制度のもとで展開され、現代で行われている催事とは大きく異なっている側面である。この点を検証することが、百貨店の変容過程を浮き彫りにし、長期的な百貨店業態継続の起因をみいだす不可欠な視点となろう。

第三。株いとう組織内の誰の最終的な判断と意思決定によって、催事が展開されていたのかである。名古屋本店と東京支店の各部門における営業動向の違いを、さらに鮮明にする重要な観点である。各百貨店と各地域とを関連させ、今後は質的な相違点を分析する必要がある。そのような原点を探ることが、現在の百貨店経営の展開にとつても肝要な指標の一つとなろう。

注

- (1) 『松坂屋百年史』（株式会社松坂屋、二〇一〇年）三〇〇頁に、松坂屋が平成二十二（二〇一〇）年に、創立一〇〇周年記念事業として開催した催事が載せられている。現在の全国における百貨店の催事展開に関しては、全国の百貨店の経営動向も含めて、毎月刊行されている『ストアーズレポート』（株式会社ストアーズ社）が最も参考になる。また、宮副謙司・内海里香『全国百貨店の店舗戦略 二〇一一』（同友館、二〇一二年）が、全国の百貨店における最新

の店舗戦略を知るうえで最も参考になる。

- (2) 神野由紀『趣味の誕生―百貨店がつくったテイスト―』（勤草書房、一九九四年）、高柳美香『ショーウィンドー物語』（勤草書房、一九九四年）、山本武利・西沢保編『百貨店の文化史―日本の消費革命―』（世界思想社、一九九九年）、末田智樹『明治・大正・昭和初期における百貨店の成立過程と企業家活動（一）―高島屋の経営発展と飯田同族会の役割―』（中部大学人文学部研究論集 第一八号、二〇〇七年）、末田智樹『日本百貨店業成立史―企業家の革新と経営組織の確立―』（ミネルヴァ書房、二〇一〇年）、末田智樹『株式会社いとう呉服店の創立背景―呉服商から百貨店業への転換過程―』（『愛知県史研究』第一五号、二〇一一年）、近藤智子『百貨店をめぐる娯楽の変容―昭和戦前期の東京を中心に―』（奥須磨子・羽田博昭編著『都市と娯楽―開港期―一九三〇年代―』（日本経済評論社、二〇〇四年）、近藤智子『「デパートガール」の登場―震災後東京の百貨店を中心に―』（『経営史学』第四〇巻第三号、二〇〇五年）、近藤智子『百貨店をめぐる流行とメディア―昭和戦前期の松屋呉服店を中心に―』（『風俗史学』第三二号、二〇〇六年）、近藤智子『百貨店をめぐる「食」の変容―昭和戦前期を中心に―』（『生活学論叢』一一号、二〇〇六年）、加藤論『昭和初期東北地方における百貨店の催物―三越仙台支店、藤崎を事例に―』（『東北文化研究室紀要』第四八集、二〇〇六年）、加藤論『戦前期における百貨店の催物―三越支店網を通じて―』（『東北大学文学会「文化」第七三巻第一・二号、二〇〇九年）、加藤論『戦前期における地方都市百貨店とその影響』（『東北史学会「歴史」第二一四号、二〇一〇年）、満園勇・加藤論『百貨店による消費文化の地方波及―通信販売から百貨店の成立へ―』（『歴史と地理』第六二二号、二〇〇八年）、満園勇『戦前期日本における大都市呉服系百貨店の通信販売』（『経営史学』第四四巻第一号、二〇〇九年）を参照。

- (3) 末田前掲書の「あとがき」を参照。
- (4) 末田前掲「明治・大正・昭和初期における百貨店の成立過程と企業家活動(一)」および末田智樹「明治・大正・昭和初期における百貨店の成立過程と企業家活動(二)(三)」―高島屋の経営発展と飯田同族会の役割―(『中部大学人文学部研究論集』第一九・二〇号、二〇〇八年)、末田前掲書を参照。
- (5) 末田前掲書第一・二章を参照。
- (6) 前掲『松坂屋百年史』四七〜四八頁。伊藤家および松坂屋の研究史に関しては、末田前掲書と、末田智樹「松坂屋創業家の伊藤次郎左衛門家四〇〇年の永続意義―明治後期伊藤三綿合資会社の設立による経営組織の近代化と地方財閥化―」(『中部大学編』『アリーナ』第一一号、二〇一一年)を参照。
- (7) 末田前掲書を参照。
- (8) 末田前掲書第三章を参照。
- (9) 本稿で「松坂屋」でなく「株式会社」と題する理由は、大正十四(一九二五)年五月一日に、「呉服店」を外して松坂屋へと社号を全店統一するまで正式な社名であったことと、呉服店を社号から取り去るまでに、株いというの百貨店化過程が隠されているからと考えるためである。ちなみに株いとは、三越、大丸、白木屋などの呉服系百貨店よりも三年早く「呉服店」を取り除いている。この点については前掲『松坂屋百年史』六七・三五九頁を参照。
- (10) 末田前掲書、二六〜二七・三三九〜三五一頁で述べたように、この点においても事業内容の公開が義務づけられていた株式会社化への転換は、現在三越や松坂屋の営業報告書から分析できるように昭和戦前期までの二大百貨店へ発展するうえで切要な決断となったと考える。それ以外の白木屋、松屋、高島屋、十合、大丸などの呉服系百貨店の営業報告書よりの検討は、株式会社化を行った大正八・九年以降からしかできない。

- (11) 『白木屋三百年史』(株式会社白木屋、一九五七年)、『松屋百年史』(株式会社松屋、一九六九年)、『高島屋百年史』(株式会社高島屋、一九四一年)、『高島屋百三十五年史』(株式会社高島屋、一九六八年)、『高島屋百五十年史』(株式会社高島屋、一九八二年)、『大丸二百五拾年史』(株式会社大丸、一九六七年)などを参照。これらの社史の他、上記の各百貨店の営業報告書にも具体的催事については記されていない、この点からも株いというの営業報告書に掲載された催事一覧表の重要性がわかる。三越に関しては、『株式会社三越一〇〇年の記録』(株式会社三越、二〇〇五年)を参照。
- (12) 株いというの明治四十三(一九一〇)年の第一期から大正三(一九一四)年の第十期までの営業報告書では一覧表になっていない。それを一覧表にして、同時期の営業報告書全体を分析した別稿の作成を進めている。今回は「大正四年前期 第十一期営業報告書」(株式会社いとう呉服店、株式会社大丸松坂屋百貨店所蔵、以下省略)から「大正十一年下半期 第二十六期営業報告書」までを使用する。また、一覧表では原文通りに名古屋営業部と東京営業部のままとし、旧字体は原則として新字体に改めた。
- (13) 「百貨店とは何か」を捉えるためには、まず百貨店化過程を探る必要がある。従来の研究では、商業論・流通論の視点からとくに部門管理制のシステムの成立過程に着目されたが、それを作り上げたのは、創業者や経営者を中心とした社員である。したがって、それらの人々に視点を当てるべきだと考え、今回は現在でも百貨店マンが最も力を注ぐ催事(催物)を事例とした。百貨店化過程にとって催事が重要であったことに着眼した理由は、実際に催事を経験した者でないとわからない側面もあることを附記しておく。そのため本稿では、注(2)であげた筆者以外に催事を分析した研究者とは異なった視点から催事を説明している。
- (14) 『店報』に関しては、前掲『松坂屋百年史』三五七頁、竹中治

助編『新版 店史概要 松坂屋』（株式会社松坂屋、一九六四年）一一二～一二三頁、末田前掲書第三章を参照。なお、筆者は『店報』と『モーラ』のすべてに目を通してある。本文の最後で述べた課題など株主としての催事展開の裏付けも含めて、『店報』および『モーラ』を主に活用した同社の分析については次の機会としたい。現在のところ『店報』と『モーラ』については、末田前掲書第三章の注を参照のこと。

(15) 『店報 大正四年八月二十五日』第一号、一頁（株式会社いとう呉服店、株式会社大丸松坂屋百貨店所蔵、以下省略）を参照。

(16) 前掲『店報』第一号、一頁ならびに前掲『店報』第一号附録、一～一二頁、竹中前掲書、一一四～一二三頁、末田前掲書一五一～一五六頁を参照。

(17) 「大正五年前期 第十三期営業報告書」、前掲『松坂屋百年史』三五七頁、竹中前掲書、一二五～一二七頁、『店報 大正五年五月二十五日』第十号、二・七～八頁を参照。伊藤家の三〇〇年祭に関しては、伊藤次郎左衛門家文書より今後分析を進める予定である。また、『伊藤家略記』（株式会社大丸松坂屋百貨店所蔵）は、伊藤家三〇〇年祭を記念して作成されたものである（J・フロントリテイリング史料館の菊池満雄氏からのご教示によるものである）。

(18) 前掲『松坂屋百年史』二～四頁、竹中前掲書、一二四～一二七頁を参照。

(19) 前掲『第十三期営業報告書』、「大正五年下半年 第十四期営業報告書」、前掲『松坂屋百年史』三四三・三五七頁、竹中前掲書、一二四頁を参照。

(20) 前掲『第十四期営業報告書』。

(21) 前掲『第十四期営業報告書』。株主としての株主数は、創業年の明治四十三年前期から大正三年後期に至る営業報告書に記載されている通り二十二名だったが、翌四年前期からは二十一名に減じた。こ

れは、創業期から大正五年前期までは伊藤家と日勤別家で占められていたことを示していた。大正五年下半年から新株主の九十三名を加え、百十四名に増加した。株主が、名古屋本店と東京支店の主任以上の社員に拡大したと思われる。この点は、増加した株主名が前掲『店報』第一号附録の職員表の氏名と一致することで判明する。したがって、この時期に日勤別家が独占していた近世期から続いたという呉服店における番頭経営の役割が一応の幕を閉じた形となった。これは「伊藤総本店」の設立と関係している（伊藤祐民伝編集委員会編『伊藤祐民伝』株式会社松坂屋、一九五二年、五三一～五三八頁を参照）。とくに、創業期からの株主のメンバーの具体的検討については別稿に譲りたい。

(22) 前掲『第十四期営業報告書』、「大正六年下半年 第十六期営業報告書」、『店報 大正六年十月十五日』第二十五号、六～七頁、前掲『松坂屋百年史』五七～五八・三五七頁、竹中前掲書、一二七～一三一頁。この時に「鶴店ノ信条」（前掲『第十四期営業報告書』）が發布された。後の大正九年三月五日に名古屋本店において通達された信条と同様のものである。この点に関しては、先の史料・文献の他に、『店報 大正五年十二月一日』号外、末田前掲書第三章を参照。

(23) 前掲『第十四期営業報告書』、「大正六年上半年 第十五期営業報告書」、前掲『松坂屋百年史』五八頁、竹中前掲書、一二四頁、末田前掲書第三章を参照。

(24) この他に、大正六年四月二十八日からの「鬼頭専務取締役及小林名古屋営業部雑貨仕入係長」による「北米合衆国商事視察」がみられ、この時期の株主という見逃せない動向であった（前掲『第十五期営業報告書』）。この点については、前掲『松坂屋百年史』三五七頁、竹中前掲書、一三一～一三四頁、末田前掲書第三章を参照。

(25) 明治四十三年から大正三年までは、催事がすべての月で行われて

- いなかった。株いとうの第一〜十期までの営業報告書から確認し、この時期の催事展開に関しては別稿で発表したい。注(13)を参照。
- (26) この点については、株いとう(松坂屋)の明治四十三年から昭和九(一九三四)年までの営業報告書(第一〜五十期)から判明する。
- (27) 有賀光胤『店史概要』(株式会社松坂屋本社、一九三七年)一三九〜一四二頁を参照。
- (28) 三越においても同様の催事が展開された。前掲『株式会社三越一〇〇年の記録』を参照。
- (29) 株いとう以外、三越や高島屋でも明治後期から美術品展覧会を中心に展開された。『三越美術部一〇〇年史』(株式会社三越、二〇〇九年)、『高島屋美術部五十年史』(株式会社高島屋、一九六〇年)、『高島屋美術部八十年史』(株式会社高島屋、一九九二年)、名古屋市博物館他編『小袖 江戸のオートクチュール 松坂屋京都染織参考館の名品』(日本経済新聞社、二〇〇八年)、徳川美術館・中日新聞社・松坂屋美術館編『松坂屋コレクション 技を極め、美を装う』(中日新聞社、二〇一一年)を参照。
- (30) 注(22)と前掲『松坂屋百年史』五九〜六〇頁、竹中前掲書、一五四〜一五六頁を参照。
- (31) 株いとうでは大正四年以前でも開催されていた。注(12)・(25)を参照。
- (32) 株いとうが発表した「信条」にかかわる内容である。信条の具体的な考察については今後の課題とする。注(22)・(30)を参照。
- (33) 注(12)・(25)・(31)を参照。
- (34) 末田前掲書第三章を参照。
- (35) 前掲『株式会社三越一〇〇年の記録』を参照。
- (36) 店舗改装・拡大が、百貨店化やその後の百貨店の経営発展にとって重要であったことに関しては、末田前掲書、末田前掲『明治・大正・昭和初期における百貨店の成立過程と企業家活動(一)(二)(三)』

- や、毎月発行の前掲『ストアーズレポート』を参照。
- (37) 「大正七年上半年 第十七期営業報告書」、前掲『松坂屋百年史』三四三頁、竹中前掲書、一二四頁を参照。
- (38) 前掲「第十七期営業報告書」を参照。
- (39) 「大正七年下半年 第十八期営業報告書」、『店報 大正八年一月二十五日』第四十号、一〜二八頁、前掲『松坂屋百年史』五八・三五七頁、竹中前掲書、一二四・一三四〜一三六頁を参照。
- (40) 前掲『店報』第四十号、一〜二八頁、前掲『松坂屋百年史』五八・三五七頁、竹中前掲書、一二四・一三四〜一三六頁を参照。
- (41) 「大正九年上半年 第二十一期営業報告書」、『店報 大正九年四月一日』第五十四号、前掲『松坂屋百年史』五九〜六〇・三三八頁、竹中前掲書、一五四〜一五六頁を参照。
- (42) 前掲「第二十一期営業報告書」、『開店十年記念 百貨共進会案内 名古屋店』(一九二〇年、株式会社大丸松坂屋百貨店所蔵)、前掲『松坂屋百年史』三五八頁、竹中前掲書、一五六〜一五八頁を参照。
- (43) 前掲「第二十一期営業報告書」、前掲『松坂屋百年史』三四三頁、竹中前掲書、一二五・一五八頁を参照。
- (44) 名古屋本店と東京支店による二店舗体制が確立した。この点に関しては末田前掲書第三章を参照。
- (45) 「伊藤総本店」の実在を示す記述については、これまで前掲『伊藤祐民伝』しか見当たらなかった。しかし、前掲「第十八期営業報告書」、「大正八年上半年 第十九期営業報告書」、「大正八年下半年 第二十期営業報告書」、前掲「第二十一期営業報告書」以降、今回使用した「大正十一年下半年 第二十六期営業報告書」までの「株主総会」の欄に記され、伊藤総本店で株主総会が開催されていたことが読み取れる。他に『店報』にも多数明記されており、「伊藤総本店」の役割については、具体的な事例とともに今後明らかにしていきたい近代伊藤家研究における最も重要な課題の一つである。

注(21)を参照。

- (46) この他に、大正九年三月中旬に生じた戦後恐慌に対する株いとうの対応策などの経営展開についても見逃せない。この点に関しては、前掲『松坂屋百年史』五八〇～五九頁、竹中前掲書、一五八～一六二頁を参照。

- (47) 前掲『松坂屋百年史』五八頁、竹中前掲書、一三四～一三六頁を参照。

- (48) 前掲『松坂屋百年史』五四～五五頁、竹中前掲書、一三六～一三九頁を参照。

- (49) 前掲『松坂屋百年史』五四～五五頁を参照。

- (50) 愛知県が、これ以後昭和戦前期にかけて日本最大の窯業の産地に成長した点については、『愛知県史 資料編二九 近代六 工業一』(愛知県、二〇〇四年)、『愛知県史 資料編三〇 近代七 工業二』(愛知県、二〇〇八年)を参照。また、この後各百貨店において、現在に至るまで絵画と並んで工芸品が美術部での販売の主流となった。

- (51) 竹中前掲書、一三九～一四三頁を参照。

- (52) 前掲『松坂屋百年史』三五七頁、竹中前掲書、一三九～一四三頁を参照。

- (53) 前掲『松坂屋百年史』三五～三六頁、竹中前掲書、一六二頁を参照。株いとうでは、他に「競技会」といった特殊な催物もあった。凶案の懸賞募集は三越でも行われていた(前掲『株式会社三越一〇〇年の記録』を参照)。

- (54) 前掲『松坂屋百年史』六〇～六一頁、竹中前掲書、一六二～一六三頁を参照。

- (55) 竹中前掲書、一〇四頁。三越も含めて、百貨店化過程を考えるうえで、これ以降の商品券の問題に関しては見落とせない論点となる。今後の課題とする。

- (56) 前掲『松坂屋百年史』五七～六〇頁、竹中前掲書、一二四～一二五・一五八～一六二頁を参照。

- (57) 前掲『松坂屋百年史』五四～六〇頁、竹中前掲書、一三六～一三九頁を参照。

- (58) 末田前掲書第三章を参照。

- (59) 「大正十年下半期 第二十四期営業報告書」、前掲『松坂屋百年史』三五八頁、竹中前掲書、一六九～一七二頁。

- (60) 前掲『第二十四期営業報告書』、「大正十一年上半期 第二十五期営業報告書」、末田前掲書第三章を参照。

- (61) 前掲『第二十六期営業報告書』、前掲『松坂屋百年史』六一頁、竹中前掲書、一八三～一八八頁を参照。

- (62) 注(61)と同じ。大阪支店の開業直前の準備状況などについては、営業報告書では「大正十二年上半期 第二十七期営業報告書」を参照。大阪支店の開業やその後の経営展開については、催事動向も含めて今後検討する予定である。

- (63) この他の経営動向・展開に関しては、竹中前掲書、一六四～一八三頁を参照。

- (64) 前掲『第二十六期営業報告書』、前掲『松坂屋百年史』五五・五三・五七～五三八頁を参照。

- (65) 『第三回コドモ博覧会』(一九一三年、株式会社大丸松坂屋百貨店所蔵)、前掲『松坂屋百年史』五二頁、竹中前掲書、一〇〇頁を参照。

- (66) 夜間営業と巡行陳列会(出張販売・店外催事)については、前掲『松坂屋百年史』五一頁、竹中前掲書、一〇一～一〇三・一一〇頁を参照。

- (67) 三越の児童博覧会に関しては、前掲『株式会社三越一〇〇年の記録』と末田前掲書第二章を、株いとうの「コドモ品部」の開設については、前掲『第十六期営業報告書』、前掲『松坂屋百年史』三五七頁、

竹中前掲書、一三五頁を参照。

- (68) この点に関しては、本文の三つの催事一覧表から読み取れる。詳細な検討については今後の課題としたい。

- (69) 巡行陳列会と称される出張販売については、本文の三つの催事一覧表から精力的に展開されていたことがわかる。株いとうの出張販売に関しては別稿で発表する準備を進めている。また、株いとう創立以前より出張販売は行われていた。この点については、末田前掲「株式会社いとう呉服店の創立背景」を参照。

- (70) この点に関しては、本文の三つの催事一覧表より明確である。今後は三越と比較して、両社の呉服類販売の特徴を明らかにすることが、呉服店から百貨店への転換過程や地域性などをより鮮明にすることに繋がると考え、今後の課題としたい。

- (71) 百貨店への転換過程については末田前掲書を参照。

- (72) この点に関しては、本文の三つの催事一覧表から読み取れる。よって、以後の百貨店の大衆化問題と関連するので、株いとうの大正十二(一九二三)年以降の催事展開を分析する必要性があり、次の課題とする。

- (73) 株いとうの大阪支店の開設は、同社のみならず大阪における呉服系百貨店の競争を激化させる契機ともなった。大正後期における大阪の百貨店の経営展開と大衆化は、昭和四年四月十五日に出現した日本初のターミナルデパート阪急百貨店とも密接に関連する問題である。この時期の大阪における百貨店史の重要な課題と考える。この点については末田前掲書を参照。

- (74) 新たな雑貨類の商品販売に、雑貨部門の拡充と部門管理制の確立が組み合わさっていたことが、本文の三つの催事一覧表からも理解できる。この点に関しては末田前掲書を参照。

- (75) 日本百貨店業の成立過程における三越と株いとう(松坂屋)の先駆的役割については、末田前掲書で指摘した。しかし、今後さらな

る検証が不可欠である。

- (76) 従来の百貨店史研究では、東京、大阪、名古屋などの都市の各百貨店が同じような営業内容および経営展開と考えられる傾向が強く、百貨店経営の独自性が全く把握されてこなかった。この点を批判した研究として、末田前掲書を参照。

- (77) この点に関しては、株いとう以外の百貨店を事例とした催事展開の分析も必要であろうが、今回の考察から一先結論の一つとしておく。

- (78) 株式会社化による資本金の増加と百貨店化の進展が相互に関連していたことは、本稿の催事展開の営業動向からも明らかになった。この点は、末田前掲書の主張点を補足するものである。

- (79) 注(78)と同様に、この点に関しても末田前掲書で検討できなかった百貨店化過程を補う部分となる。

- (80) 株いとう(松坂屋)も含めて三越、白木屋、松屋、高島屋、十合、大丸の店舗数については、末田前掲書、一一五頁を参照。

- (81) 昭和戦前期までの株いとう(松坂屋)の店舗戦略に関しては、今後の課題の一つとしたい。

- (82) 両店の経営展開の特徴については、末田前掲書第三章で指摘しているのを参照のこと。

- (83) この百貨店の地域性の問題に関しては、歴史学(歴史学的地域史研究)と(歴史)地理学(地理学的地域史研究)の両視角、ならびに二つの融合の観点から解明していかなければならない大きな課題であると考えられる。

- (84) 伊藤家の呉服店経営の近世期から近代期への連続性については、前掲『松坂屋百年史』一四〇六一頁および末田前掲「松坂屋創業家の伊藤次郎左衛門家四〇〇年の永続意義」を参照。

- (85) 前掲『松坂屋百年史』を参照。

(謝辞)

名古屋市の伊藤次郎左衛門家は、二〇一一年で創業四〇〇年を迎えた日本でも有数な大商家である。この度もまた四〇〇周年にあたり、伊藤家ご当主様より同家所蔵の史料調査と研究のご許可を頂戴し、本稿の作成と発表が可能となった。心から御礼を申し上げる。今回も伊藤家所蔵ならびに松坂屋関係の史料の閲覧・撮影において、数多のご支援とご指導を頂戴したJ・フロントリテイリング史料館の菊池満雄様と、揚輝荘の会の鬼頭伊之助様に感謝を申し上げる次第である。ことに本稿の結論づけを導くにあたっては、『松坂屋百年史』（株式会社松坂屋、二〇一〇年）が参考となった。なお、本稿は愛知県史編さん委員会近現代史産業経済部会調査執筆委員および、二〇一一年中部大学特別研究費に基づいて活動した研究成果の一部であり、心底からの万謝の気持ちで研究に臨んでいることを附記しておく。

(二〇一一年五月十七日 受理)